

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っている事、負担に感じている事等を具体的に書いてください。

- ・過去に、本人が給食施設の調理主任をしていた経験から、すべての調理作業を把握することが自分自身の役割と考え熱心に取り組んでいるが、数量や食材など、主任時代と現実が異なっていることを認識しないまま、「ここは私の仕事場だから！」とスタッフのみならず他の入居者に指示的な口調で一方向的に話をするがあり、ホーム全体の人間関係を考える時に、個人の思いの実現と他入居者との関係性のなかで、自分自身が悩み困難を感じる時がある。

【質問】

本人の指示的な口調に対して、他の入居者からはどんな言葉や態度が見られますか？例えば批判的に言われたり、怒られたりすることはありますか？また逆に褒められたり、喜んだりすることはありますか？

【回答】

他入居者の反応、「そんなふうには言わなくてもいいのに・・・」「それじゃ、あなただけが一人で勝手にすれば・・・」「そんなに言われても私はできないの！」など。中には、何も言わずにその場を離れ自室へ帰る入居者もいる。もちろん、黙って指示に従う（ただ受け入れている様子）場合もある。

【質問】

本人は他入居者やスタッフのことをどのような立場や役割の人と思っているのでしょうか？何か具体的な本人の言葉等による表明はありませんか？

【回答】

（調理しているスタッフに対して）「今日はあなたに任せるね。」（自分の指示通りにいかないときに）「そんな勝手なことをして！」（スタッフや他入居者に対してねぎらいの気持ちで）「あなたも大変ね。」「あなたがやってくれて助かるわ。」など、自分の部下として見ていることが多い。また、他入居者が体調不良を訴えると、「おかゆなんかどう？」と他入居者を気にかけるような態度も見られる。全般的に、新人や若いスタッフ及び他入居者に対しては指示的態度、管理者やベテランのスタッフには仲間の態度が見られる。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・他の入居者と一緒に、楽しくお互いに助け合いながら調理をしてほしい。
- ・自分のペースだけで物事を進めずに、他の入居者のペースを大切に気遣ってほしい。
- ・自分の役割としての調理に関心を持ち、一生懸命に取り組んでほしいが、身体の状態を考えず疲れの限界を超えて心と身体のバランスが崩れるときがあるので、疲れたときは自分で休息がとれるようになってほしい。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)

- ・調理作業はスタッフと役割を話し合い、「みんなの協力をもらうのも主任の大切な仕事である」ことを理解してもらえよう働きかける。

【質問】

本人は調理そのものを自分一人で完成させることができますか？

【回答】

完全に本人が一人で出来るものは無い。大体8割程度。例えば、グループホーム人数分で調理を始めても途中で分量が増えたり(給食時代の感覚)他人の作業が気になって自分のやっていることを忘れてしまったりする。

【質問】

本人は他の入居者やスタッフと共同作業として調理ができますか？

【回答】

メニューや調理方法による。細かな作業や個数が増えると困難性が増す。大体の目安程度でつくれる段階では共同でできるが、盛りつけなどでは他入居者が大体の目安で分けると気に入らないらしい。数えられるものや一人ひとりの量が揃わないと納得できなくて口調が指示的になり、共同作業ができにくくなる。

- ・他入居者にも調理や食事準備に協力をもらい楽しい食事ができるように、ホーム全員で話し合う機会をつくる。

【質問】

話し合った結果を具体的にどんな形で日々本人に分かるように、あるいは伝わるようにしようと考えていますか？

【回答】

ベテランスタッフが中心になって、入居者全員と一緒に声かけしながら行う。若手よりベテランが活躍。その日の段取りをよく話し合っ、役割を理解してもらう。

- ・調理作業の合間に休憩時間を決めて、お茶を飲みながら調理作業を忘れる時間をつくる。調理は立ち仕事が多いので、座ってできる作業を見つけて一緒に行う。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・「食材が足りない！」と言いながら、何度も電話をかける。

【質問】

具体的にはどこに、どのような形で電話をかけるのでしょうか？またその結果本人はどんな様子なのでしょうか？落ち着く？あるいはあまり効果がない？など。

【回答】

給食施設時代に付き合いのある商店や食材納入業者に自分で電話をかける(電話は外線停止)。「また休んでいる。」「大事なときなのに。」と言いながらメニュー表と見比べる。電話をかける行為そのもの

では落ち着かないが、その後のスタッフのフォローで対応（「また明日かけてみましょう。」「今あるもので何か作りましょう。」）

- ・メニュー表を見ながら、自らすべての下ごしらえをしようとする。

【質問】

下ごしらえをしようとして、実際に本人がしますか？それとも指示だけで実際にはしないのでしょうか？

【回答】

メニューによる。煮物などの自分が慣れ親しんだものでは材料を切って見せて、「後は任せるからやっというてね。」となるが、横文字メニューでは手を出さず何も言わない。他人に任せて知らん顔している。

- ・スタッフの手洗いの声かけに、「国家資格を持つてるの！そんなことはちゃんと分かってる！」と怒った口調で言う。

【質問】

スタッフの声かけで、本人が喜んだり、納得したりする時はありませんか？あるいは、困ったような、助けを求めるような言葉や仕草、様子はありますか？

【回答】

ねぎらいの声かけ、例えば、「あなたが見てくれているから皆が毎日美味しく食べられていますよ。」「今日はありがとうございました。後は若い方でやりますから休んでいてください。」など。また、「どうすればいいの？」「どっちだった？」などは本人がどうしていいかわからなくなっている時の口癖と捉えている。

- ・他の入居者に、「そうじゃない、昨日も教えたでしょ！何でそんなこともわからないの！」と怒りながら言うが、自分は言うだけ言ってその場から離れてしまう。

【質問】

本人がその場から離れるのは何か他に用事があるからなののでしょうか？それとも本人は十分自分で調理が出来ないからなののでしょうか？

【回答】

他の用事などはないと思う。自分が調理を上手くできない苛立ちのようなものがあると思う。時々、「あなたお願いね！」と言って苦手な場面から離れることがあり、なにか自分で間違っているかもしれないと感じているのではないかと思う。

【質問】

こんな場面では本人はどんな気持ち、（不安、混乱、怒り、心配、満足 etc・・・）なののでしょうか？

【回答】

不安や混乱があると思う。また、責任者として何か言わなければならないという思いやできるところを見せたいという思いもあると思う。だけど、「やってください。」と言われると困るから離れるのは・・・。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましょう。

- ・身体が自由がきかず、調理も自分の思うとおりにいかず、気持ちの中に苛立ちがあるのではないか。

【質問】

上記のような感情に対して本人の不安や心配、自信のなさ、ひいては役割の喪失への恐怖感など様々な感情が交錯していると思いますが、どんな感情が本人の中で湧き上がっているのでしょうか？

【回答】

不安、心配、自信のなさ（できるものとできないものが混在）役割の喪失（責任感を伴う）などが本人のなかで入り混じっている状態ではないだろうか。また、自分自身に対する情けなさ（できていたことができなくなった）や、くやしさ、戸惑いも感じる。

- ・仕事に対しての責任感が強く、仕事は厳しく手早く行わないと気がすまない、または納得できない性格的な一面が影響しているのではないか。

【質問】

上記のような性格は他の場面でも見られますか？もし見られるなら具体的にどんな場面で、どんな言動がありますか？

【回答】

他人のいい加減さが許せない。例えば、食堂でうとうとしている他の入居者に、「こんなところで寝るんじゃない。寝るなら自分の部屋で寝なさい。」などと言うことがある。自分のことは自分であることを厳しく課している。自分で上手くできないこと（失禁後の対応など）も他人の手は借りない。

- ・他の人の声や手が入ることで、自分のやり方が非難されたり邪魔が入ったと思い込み、他の人に対して不快感や不信感を感じるのではないか。

【質問】

具体的な場面以外で上記のような感情を示すことはありませんか？例えば普段の会話の中など。

【回答】

レクリエーションなど皆で楽しんでいるときに本人が勘違いしたり、上手く出来ないことがあったときに、他人が、「こうすればいいですよ。」と言うと、「私がしているんだから・・・(ほっといて!）」と険しくなることがある。自分の苦手な部分や弱みを他人に見られたくない気持ちの表れではないかと思う。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんな事だと思いますか？

- ・自分がやりたいこと、やらなければいけないこと（調理）が思うようにいかず、時々他人から邪魔をされ苛立ちを感じながらも、自分自身でどうしていいのかわからない状態で困っている。

【質問】

本人からSOSのようなサインは何か見られますか？言葉だけでなく、表情や仕草、雰囲気など。

【回答】

間違いは指摘できるが解決はできないので、その場から離れる。 困った時のサイン。

「あなたお願いね。」「あなたならできるでしょ。」 自分でできない時のサイン。

苦笑いをしてスタッフを見ているとき。 声を掛けてほしい時のサイン。

- ・他人とうまく付き合いたいと思いつつも、主任という人の上に立つ立場では簡単に仲良くできないという気持ちがあり、みんなが自分に従ってほしい。
- ・仕事は最後の最後まで全力でやらないと気がすまないし、身体もくたくたになるので、本当は途中で誰かに（立場的に上の人に）休むよう声をかけてほしい。

【質問】

「休むように声をかけてほしい。」のようなニュアンスの状況は何か具体性を持って表現されていますか？あればどんなことですか？

【回答】

疲れたときは本人から、「足の爪が痛い。(実際は完治している)」と訴えがあり、自室で状態を見てあげると、「こんなに一日中働いて。」「誰もやってくれない。」などと言いながら休まれる。現在、医学的には痛みを伴う状態は完治しており、「痛い」を、疲れたときのサインとして受け取っている。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつか書き出してみましょう。

- ・本人に講師になってもらい、「料理教室」を開催する。

【質問】

現在の本人の能力で十分やれそうですか？あるいは結果として本人が達成感や充足感を味わえそうですか？また、スタッフが支える場合、具体的な支えの方策は何か考えられますか？

【回答】

本人の満足感や達成感は得られる。「料理教室」で本人が講師らしくできるのは、味見や作業の指示が主体で、全般的な作業は共同で行う。調理をお願いすると、そのことに夢中になり、「料理教室であること」を忘れる。満足感を得てもらうには、その後のフォロー、例えば、「皆さんに好評でしたよ。」「皆さんとても喜ばれていました。」などの声かけが必要になる。

- ・検食簿など座ってできる役割をやってもらう。
- ・他の入居者と一緒にできること（調理以外）を楽しむ。（例えば、食材にも結びつくような植物を育てることで、興味を持ってもらいながら、他者と野菜づくりを行う、など）
- ・調理だけに夢中にならないように、他の人と一緒にの楽しみを見つける。（例えば、毎週行っている英会話教室や生け花などに、もっと興味を持ってもらう、など）

【質問】

本人にとって「調理」や「調理主任」だったことは、どれほど大切なことなのでしょうか？何か他の事柄や興味で代償出来るものなのでしょうか？本人が心から願っていることはどんな事柄なのでしょうか？

【回答】

生活歴から知ることが出来る様々な仕事をしてきた中で、調理（調理主任という立場も含めて）が最後に残った。調理だと、自分が主役になれ、周囲に喜ばれ、他人から褒められ、役に立っている満足感もある。今のところ、これに替わるものは見当たらない。家族にも協力してもらっているが、やはり調理になってしまう。

（助言者の考察）

もともと調理という作業は複数の事柄を同時に進行させるという、認知症の人にとっては極めて難しい作業の一つだと思います。本人が調理に係れている間は、そのことを最も大切にして差し上げることが重要だと思います。また、認知症の人は自分の困っていることや助けてほしいことをうまく周りの人に伝えることが苦手です。違った表現や仕草などよく見られます。本人の場合もやはりそうした面があるようですね。

認知症の人にとっては例えば、「きちんと出来ること」や「間違いなく出来ること」が重要なのではなく、それを本人がやろうとして必死に頑張っている姿が重要なのではないのでしょうか？そんな風な考え方、捉え方もあるのかもしれないと感じます。

また支えるスタッフにとって大切なことは、本人の感情や感覚を十分に理解し、注意深くその時々本人の調子や状態、そしてそれに纏わる本人の感情や感覚を感じ取ること、こうした事柄が本人にとっては、「ここでは少々失敗しても大丈夫なんだ。」というような感覚の記憶が造成されることにつながるのではないかと思います。同時に本人にとっては「繕い行為」をしなくてもすむという状況も生まれるのではないのでしょうか。

本人は調理という仕事に誇りと自信を持っているのでしょうか。つまり自分の仕事に他人が勝手に手を出すことが我慢できないのかも知れません。本人が一人で出来そうな作業だけを本人に任せるなど、工夫が必要なのかも知れません。つまり「説得」ではなく本人が「納得」できる状況が必要なのだと感じます。

また料理教室の開催は一つの手段としていい方法だと思います。大切なのは本人の満足感が得られることと、後になってそのことを思い出してもらえることだと思います。一つの方法としては、写真やビデオといった視覚的な素材を残しておき、後日視聴してもらいその時のことなどを話し合う方法が考えられます。

本人が他の入居者に厳しい態度を示す際には、本人が批判的なあるいは拒否的な言動を発する前に関わるといいのだと思いますが、現場では必ずしも常時という訳にはいかない場合もあると思います。その場合でも、本人は精一杯の自分の力で何とか生活してゆこうとしているのだと理解し、その心情を支えてあげるような関わりが大切だと思います。